

現代社会と宗教文化



授業概要

宗教というとほとんどの人は自分とは関係のないものだと感じるかもしれません。

しかし、現代社会では宗教は様々な形を変えながら、政治・経済・医療・教育・音楽・映画・サブカルチャー・観光などへと浸透しつつあります。

たとえば「自分探し」と呼ばれる現象は、十分に宗教的と言える性質を備えています。

この授業では、宗教文化を入り口に、現代のさまざまな文化現象にどのような問題が含まれるのかを考えます。

到達目標

現代社会の読解に役立つ社会学・人類学・宗教学・観光学などの基礎概念を身につけることを目標とします。

成績評価

平常点（出席とレスポンスシート、50%）と期末レポート（50%）によって評価します。
5回以上の欠席は失格とします。
私語には厳しく対処します。

担当教員 *teacher in charge*

岡本 亮輔

メディア・コミュニケーション
研究院 准教授



授業計画

映像資料・画像資料を用いながら、講義形式で行います。

授業の最後にレスポンスシートを提出してもらい、可能な限り履修者との双方向性を高めます。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 一神教の世界：異常はどのように定義されるのか
- 第3回 アニミズムの世界：なぜ巨石に精霊は宿るのか
- 第4回 祈りの宗教学：呪いのワラ人形にはなぜ釘をうつのか
- 第5回 カルトと予言：世界の終わりはなぜ来ないのか
- 第6回 アイデンティティの宗教社会学：なぜ自分を探しに海外へ行くのか
- 第7回 ディズニーアニメの神話学
- 第8回 都市空間の宗教学：なぜ行ったことのない田園風景にノスタルジーを感じるのか
- 第9回 消費文化の宗教学：なぜショッピング・モールで買い物をするのか
- 第10回 自死の社会学：なぜ「ぼんやりとした不安」にとられるのか
- 第11回 都市伝説の宗教学：なぜ怪談は怖いのか
- 第12回 パワースポットの社会学：聖地はどのように作られるのか
- 第13回 コンテンツ・ツーリズムの宗教学：なぜアニメ聖地は埼玉県に多いのか
- 第14回 聖地巡礼の宗教学：なぜ無神論者が巡礼をするのか
- 第15回 まとめ